

社会福祉法人ゆめグループ福祉会令和5年度（2023）事業報告

1. 社会福祉法人ゆめグループ福祉会の基本理念

- 1) 障がいのある人々の権利を守り、その選択と自己決定を尊重します。
- 2) 障がいのある人たちの生きがい・労働を支え、地域生活を営む力をつけられる支援を行います。障がいの有無を問わず、ともに交流し、ともに働き、ともにくらす場をつくります。
- 3) 障がいのある人たち・その家族・地域住民のねがいにもとづき、地域に根ざした、開かれた施設をつくり、地域の福祉の向上をめざします。

以上の理念に基づき、各種の事業に取り組んだ。

2. 事業運営

以下の第2種社会福祉事業の運営及び公益事業を実施した。

施設の事業報告は別紙。

- 1) 第2種社会福祉事業 障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）の運営：
ゆめ工房、ゆめ工房北砂、ふれあい工房、ドリーム第2、ドリーム第2分室リサイクル工房サラエ、ドリーム第2分室ドリーム第3、ドリームクラブハウス
- 2) 第2種社会福祉事業 障害福祉サービス事業（多機能型→：就労継続支援B型、生活介護）の運営：ネットワークゆめ工房（11月より生活介護単独）
- 3) 第2種社会福祉事業 障害福祉サービス事業（共同生活援助）運営：
ひだまり第3・ひだまり第4、ひだまり第5、いぶき寮、丸山ハイツ・東砂ハウス
- 4) 第2種社会福祉事業 障害福祉サービス事業（居宅介護、重度訪問介護、同行援護）、移動支援事業運営：地域交流支援センター
- 5) 第2種社会福祉事業 特定相談支援事業：ゆめ相談支援事業所の運営

以下の公益事業の運営を実施した。

- 1) 公益事業：
「江東区心身障害者生活寮」 生活寮ひだまり、生活寮ひだまり第2の運営

3. 2023年度の取り組み

- 1) 役員人事：理事の任期満了により、理事を選任 第2回理事会で理事長、業務執行理事を選任した。（後述）
- 2) 行事：4月14日入所式 新入所者と代表のみ会場、各所をリモートで繋ぐ。

メーデー3 事業所のみ参加 9月25日(月曜日)11時から15時大運動会 東京文化スポーツ館メインアリーナ ボランティア 久々の全体行事
全体の宿泊訓練中止→各事業所ごとの宿泊訓練や移動訓練に変更
新年顔合わせ 年賀状写真撮影 セレモニーのみの二十歳還暦式典

- 3) ひきつづき新型コロナウイルス感染症対策：検温、消毒器の設置、加湿清浄機の設置、アクリルパーテーションの設置などの対策を各事業所の実情に応じて実施した。PCR検査は江東区補助金などを活用し定期的に行った。その他、抗原検査も事業所毎に適宜実施した。
- 4) 食品製造や店舗型の就労継続支援事業所について：感染防止上営業ができず、受注作業などを行って工賃を確保した。感染者や濃厚接触者が判明する度に、該当事業所を安全のため2日～1週間程度閉所した。2023年9月くらいから店舗営業を再開した。
- 5) グループホームについて：感染者が出て、個室での隔離や日中活動中止などがあった。高齢化による退所などあり、その補充がうまくいかなかった。女性利用者減少→男性寮への変更方針(いぶき寮)。慢性的な空き部屋解消のため東砂ハウスの夜間体制の運用を開始、夜勤職員の病気退職など。空き部屋が一部屋出ている。また、区型GHひだまり第2では夜勤体制見直しのため、入居者移動あり補助金返還などあり。
- 7) 施設整備の改善：共同募金B配分を活用し、作業所は移動訓練など行った。
- 8) 職員参加による研修の実施：ズームを使用した施設長会議、職員会議が定着した。ズームを使用している研修も受講を進めた。職員対象の虐待防止研修を各施設で実施した。インターネットで個人で受ける研修(ジョブメドレーアカデミー)新人対象の研修、虐待防止研修も行った。処遇改善も制度にのっとり実施した。12月対面の職員会議で、相互理解のためのワークショップを行った。
- 9) 地域連携の取り組み：10月よりゆめマルシェ第3土曜日開催。江戸資料館通りかかしコンクール、ソーシャルアート、絵馬作成には参加することが出来た。
- 10) 法人組織体制：施設長会議や、職員会議、グループホームの定例会議もズームで行った。年度末には施設長会議を月1回対面で行うようになった。
- 11) 第三者評価：3事業所と2グループホームで実施。
- 12) 行事の取り組み：4月入所式 対面とズーム 1月年初顔合わせ 対面
- 13) 6月 東砂ハウス東京都実地検査 7月地域交流支援センター江東区指導検査
11月江東区監査部監査(ドリーム第2、ふれあい工房) ゆめ工房消防検査、ドリームクラブハウス労基署調査

4. 理事会・評議員会の開催

1. 評議員会

対面とリモートの複合開催

1) 第1回評議員会【令和5年6月23日（金）】

2022年度事業報告、2022年度決算

2) 第2回評議員会【令和5年8月4日（金）】

決議の省略 ネットワークゆめ工房の事業内容変更

3) 第3回評議員会【令和5年10月23日（月）】

監事退任・選任案、2023年度補正予算案、東砂ハウス通過型から滞在型への変更、ドリーム第2分室ドリーム第3独立の件

4) 第4回評議員会【令和6年3月28日（木）】

令和6年度予算及び事業計画、理事長報酬変更、事業所移転費用等積立の件

2. 理事会

対面とZoomの複合開催

1) 第1回理事会【令和5年6月6日（火）】

2022年度決算・事業報告、職員就業規則変更、職員給与規程変更、ドリーム第2本館分室間の定員変更、理事監事の選任案、定時評議員会の開催について

2) 第2回理事会【令和5年6月23日（金）】

理事長選任、業務執行理事選任

3) 第3回理事会【令和5年8月4日（金）】

決議の省略 ネットワークゆめ工房生活介護への移行、評議員会の招集事項

4) 第4回理事会【令和5年10月4日（水）】

監事退任案、選任案、2023年度補正予算案、東砂ハウス通過型から滞在型へ変更、ドリーム第2分室ドリーム第3独立の件、ネットワークゆめ工房運営規程変更、ひだまり・ひだまり第2の運営規程制定、次回評議員会の開催を10月23日にZoom、対面混合開催の件

4) 第5回理事会【令和6年3月19日（火）】

令和6年度予算案事業計画案、住居支援手当創設、福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金手当創設、経理規程細則変更、理事長報酬変更、評議員会開催日時

5. 2023 年まとめ

- 1) 理事会 評議員会 理事改選を規則通り手順で行った。監査を受けて各種改善に取り組んだ。
- 2) 財政的には、報酬単価の切り下げ、加算への対応不可能、生活寮の赤字問題、居宅介護事業の減少、ヘルパー人手減少など改善が必要な問題が山積している。対策としては、就労 B 型→生活介護への切り替え、グループホームの夜間体制などにより稼働率を上げるなどが考えられる。2024 年 4 月の報酬改定により予想通りの増収とならないものもある。いずれにしても中期計画をたて資金計画を立てたうえで新規の取り組みを行っていくことが大切である。2023 年度は事業収益で赤字が出てしまった。不採算部門の事業所の赤字脱却へ努力を続けていく。人件費も、スタッフの確保、支援内容の質の維持など相反する要素もありながらも、ひきつづき適正化が必要である。
- 3) 次世代の人材育成を進めるうえで、各種委員会への若い職員、利用者参画、経営情報の職員への公開をすすめやる気を引き出すこと、労働条件の向上に努めます。ハラスメント、虐待防止など運営基準を守っていく。また、コロナ感染症により中断してきた様々な課外活動についても職員の育成を図りつつ再度実施していくこと今後も行っていく。
- 4) ゆめ工房、ゆめ工房北砂の建物を建て替える計画が所有者と地域の NPO, 社会福祉法人の間で会合を持ちながら進んでいる。障害分野にとどまらず、幅広い地域のニーズの受け皿を作ることに協力をしていく。

事業所名	ゆめ工房
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	就労継続支援B型
所在地	東京都江東区北砂1-14-4 1階
管理者	袴田 将吾
基本情報	定員 20名 現員 30名 男性18名 女性12名 年間平均1日あたり通所者数16.3人 平均年齢43.8歳 就労支援会計売り上げ2,640,692円 平均工賃10,179円
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人たちの生きがい・労働を支え、地域生活を営む力をつけられるように、適切な支援をおこなう。 ・集団を基礎とした人間関係を中心に置き、作業を通じて社会で生きていく力の獲得を目指す。 ・文化活動・スポーツ活動に取り組み、健康で文化的な生活をおくれるように支援する。 ・他の支援機関と協力し、一般就労にむけて支援する。
今年度目標と達成度	<p>①コミュニケーション能力の向上 →利用者同士による相談や声掛け、協調が必要な場面を意図的に創出することや、毎月のレクリエーションの時間によりコミュニケーション能力の向上を目指した。グループワーク形式での話し合いを積極的に行い、日常の活動においてもコミュニケーション量も増え、活気ある雰囲気が醸成されてきた。</p> <p>②主体的で自立した個々の人間としての成長を目指す。 →1人ひとりの出来る仕事も増え、自発性が活性化。自分の役割に責任を持ち取り組む姿勢が育成されてきている。これにより作業分担を決める会議も有意義なものになってきている。</p> <p>③同一労働同一賃金の現実化を目標に労働の機会を提供する。 →作業の効率化や新たな作業の受注等の取り組みを行い工賃の向上を目指し、ある一定の成果はみられたが、その他要因により大きな減収となった一年であった。今後も工賃向上を目指していきたい。</p>
事業内容 就労支援事業	<p>年間工賃支払い目標額 230万円 (20万円UP) →1,974,450円(-114,290円)</p> <p>目標平均工賃月額 9000円 (現状据え置き) →10,179円(旧基準で算出すると7,773円)</p> <p>※企業の倒産等により想定外に作業の受注量が減少したことにより大きく減収した。新規作業を受注するなど対策を講じたが減収を埋めるには至らなかった。平均工賃の減少については2023年度には新規利用者を6名受け入れた事、行事の再開に伴い作業日数が減少すること等から十分に予想されたが、その予想を越えての減少となった。</p>
事業内容 年間行事 余暇活動	<p>4月：入所式 9月：大運動会 1月：成人・還暦のお祝い 事業所の行事 工賃支給日の〇〇会 (散歩、ゲーム、映画等のレクリエーション)</p>

事業内容 日課 と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のラジオ体操から帰りの会まで、時間や状況に合わせた行動を推進した。 ・出席確認や、テーブル拭き等で、相談して決めなければならない環境を作った。 ・周囲への思いやりや遠慮を行う文化の醸成を推進した。 ・一週間の見通しを持てるように支援（弁当注文表、週間予定表など活用）
事業内容 文化 的活動	<ul style="list-style-type: none"> ①〇〇会（毎月月末、利用者同士の交流を目的にレクリエーションを行う） ②学習会（お互いの差異を認め合える相互理解をすすめるグループワーク等） ③創作教室など月1回 ④①2023年のスローガンの掲示 ⑤アートパラ深川にて絵馬の展示に出品。 ⑥敷地内花壇での野菜作り実施。 など
事業内容 利用者 自治活動	<ul style="list-style-type: none"> ① リーダー会議 ② 朝の打ち合わせ（リーダー）を行い利用者主体の自治を目指す。 ③ メンバー自治会（なかまの会）の組織、定例会議を支援する。（zoom活用） ④ 「何でもやろうかい」の立案・実施（〇〇会と一体的に実施） ⑤ 各種行事实行委員会、メンバー全員が年に1回は実行委員になる（休止中）
事業内容 その他	<ul style="list-style-type: none"> ② 希望者には送迎を実施。感染対策に関しては一部緩和。 ③ 給食は実施しない(仕出し弁当を斡旋する)
利用者支援	<p>「コミュニケーション」「自分たちの仕事」を合言葉に日中活動を実施。 →協力をしあえるチームワークの面で大きく成長できた一年であった。 「〇〇会」の内容決め等の話し合いの進行を利用者が自分たちで行うことを推奨。 話し合いや集団での活動に対する批判的かつ非協力的な姿勢が大きく改善できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 給料と評価基準の明確化を利用者が理解できる形で進めた。 ② 利用者アンケートを実施 ③ 利用者に対する経営状態の公開 ④ 就労希望者には情報提供と実践力を培う練習との両面で就労支援を行う。 ⑤ 高齢化への対応、各介護保険事業者との連携
職員	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別支援計画の作成・検討・改善のための支援会議を定期的に行う。 ② 経営状況の説明を頻繁かつ丁寧に行う事に留意し透明性のある経営に注力。 ③ 適宜個別事案に関する話し合いの場を設け支援の方向性の統一を図った。
事業所の管理運 営について	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員全員に経営状態を共有したオープンな状態で経営改善を目指した。 ② 新規利用者の獲得、出席率向上、恒常的な在宅支援を視野に入れ、一日平均利用人数+2名を目指し、新規利用者獲得、出席率向上を共に達成した。 ③ 工賃による訓練費格差については各所に不合理を訴えていく。 ④ 高齢障害者中心の事業所か、多様な年齢の事業所か将来の方向を考える。押しつけの地域包括支援ではない専門家ネットワークづくりに向けて方向を考えるについては、若年利用者を獲得することで多様な年齢、障害の利用者が通う事業所を理想とし、環境整備を進めた。 ⑤ 職員の仕事マニュアル作りを進めた。 ⑥ 作業所の中期計画案作りを進めた。 ⑦ 就労中、在宅など元利用者などのアフターケアを行った。 ⑧ サービス提供記録整備、電子記録の活用検討したが、既存ソフトの優位性から請求ソフトによる記録の一本化は見送った。 ⑨ 虐待防止研修等の「義務となっている研修」およびメニュー選択加算の新要件である「都が指定する研修」を抜かりなく行う。についてはジョブメドレーアカデミーを活用する等で推進した。

苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	苦情1件(内1件…送迎ドライバーの喫煙) ヒヤリハット1件(送迎忘れ) 事故報告1件(転倒)
職員研修について	ジョブメドレーアカデミーによる研修を実施。 6月…工賃アップセミナーレベルアップ編
避難訓練・災害対策などについて	BCP・各種委員会等の実施および記録を整備。
そのほか	職員の産休等もあり、意欲的に求人を実施。新入職員を迎え、事業所運営を安定的におこなうべく体制の整備に努めた。
まとめ	本年度は新型コロナウイルスの流行も落ち着いてきたことをうけ、行事等による交流や活動の再開が始まった一年だった。新規利用者、職員が入ってきたこともあり、作業所も大きく変化があった。就労支援事業の減収に対する対応と並行して今後も支援、環境面での充実をもって当施設の付加価値の向上に努めたい。

事業所名	ゆめ工房北砂
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	就労継続支援B型
所在地	東京都江東区北砂1-14-4 2階
管理者	安部 慎太郎
基本情報	定員 25名 現員 27名(3月31日時点) 男性12名 女性15名 年間平均1日あたり通所者数20.7人 平均年齢36歳 就労支援会計売り上げ3,190,806円 平均工賃7,536円
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人たちの生きがい・労働を支え・地域生活を営む力をつけられるよう、適切な支援を行う ・文化活動・スポーツ活動に取り組み、健康で文化的な生活をおくれるよう支援する ・集団を基礎とした人間関係を中心に置き、作業を通じて社会で生きていく力の獲得を目指す ・他の支援機関と協力し、一般就労にむけて支援する
今年度目標と達成度	<p>「さらに楽しい北砂をつくろう！お金をかせぎたい、あそびもしたい！」 自分 がたのしかったか？○：25人 ×：1人 みんな たのしそうだったか？○22人 ×4人</p> <p>⇒達成 1. あいさつをする→○：21人 ×：5人 2. ひとのはなしをきく→○：15人 ×：11人 3. みんなにはなしかける→○：19人 ×：7人</p> <p>○・× 2024年5月10日(月)会議出席のメンバー・職員</p>
事業内容 就労支援事業	<p>○収入3,190,806円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下請け作業 1,440,010円 紙製品の組立、定期刊行物の発送代行 ・菓子製造業 1,618,522円 せんべい、芋けんぴ、あげせん ・自主製品 132,274円 エコクラフト(小物入れ、カトラリーケース、福祉大会記念品)
事業内容 年間行事 余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・9月 ゆめグループ運動会 ・3月 日帰りバスハイク いちご狩り@千葉県館山市 <p>コロナウイルス感染予防のため、グループ全体ではなく事業所ごとで宿泊研修を予定していたが体制が整わず日帰りバスハイクとした。ゆめグループ家族会から補助金あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回 誕生日会
事業内容 日課と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・体操、掃除、朝の会、帰りの会などを計画通り行った。司会担当者(利用者)の振り返りでは、話をする場面で「一部の人しか話を聴いていない」との感想があった。
事業内容 文化的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展への出展(きょうされんグッズデザインコンクール、かかしコンクール、障害者作品展、絵馬など)
事業内容 利用者自治活動	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー、係などの役割分担

事業内容 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者には送迎を実施 ・昼食時の買い物支援を行った
利用者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援の充実 通所出来ない利用者宅への訪問、散歩同行 ・必要に応じて通院同行や食事・排泄の補助などした ・経営状態の公開
職員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施 ・個別面談 ・経営状態の公開 ・月1回 ゆめグループ福祉会職員会議@Zoom ・週1回 ゆめグループ福祉会施設長会議@対面&Zoom
事業所の管理運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の健康診断を実施（利用者は保健相談所、職員は診療所と契約） ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の励行 ・作業中は作業に関わることのみ話す ・食事中はパーテーションの利用と話をしないことで飛沫感染を予防 ・施設消毒 ・第三者評価受審
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情処理0件 ・ヒヤリハット0件 ・事故報告1件 ・東京都、江東区 事故報告1件
職員研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の指導力を高めるためにオンライン動画研修を導入した
避難訓練・災害対策などについて	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（2回）
そのほか	
まとめ	<p>2024年度もコロナウイルスの影響は大きかったと評価している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが第5類感染症へ移行した影響で、紙製マスクケースの組み立ての仕事が激減した。 ・感染者は出たが、重症化する人はなかった。

事業所名	ネットワークゆめ工房
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	生活介護・就労継続支援B型→11月より生活介護のみとなった。
所在地	東京都江東区北砂1-17-4-1階
管理者	富山 悟
基本情報	<p>定員 10名（就労継続支援B型）10名（生活介護） →11月より生活介護事業定員20名のみとなる</p> <p>現員 就労継続支援B型：6名（男性4名 女性2名） →10月末で廃止で1名他事業所へ異動し他事業所から1名ネットに異動 生活介護：13名（男性10名 女性3名）→5月に1名退所 計18名</p> <p>就労継続支援B型：年間平均1日あたりの通所者数約3名 生活介護：年間平均1日あたりの通所者数約11.1名 生活介護移行後は半年間20.1名として稼働。 平均年齢35.3歳（令和5年3月31日現在） 授産会計売り上げ 1,123,871円 平均工賃（就労継続支援B型）1,348円（生活介護）3,278円</p>
基本方針	<p>障がいのある人たちが生きがいある生活を送れるよう支援する。 特に障がいの思い利用者に視点をあて生活介護事業を重視する。 障がいの思い利用者の介助について研修し「安全安心」を重視する。 労働の場を提供し、更には地域の人々と交流し共生する場を実現できるよう努力する。 他の支援機関と協力し一般就労実現のために支援する。 文化活動やスポーツ活動など多様な取り組みを行い、利用者の力を十分発揮できるよう支援する。 生活リズムを大切に、障がいと付き合いながら、健康と維持増進する為の取り組みを進める。</p>
今年度目標と達成度	<p>『お互いに理解しあってもっと明るく楽しいネットにしていこう。コロナに負けないようにがんばろう！』 楽しくできたが、まだまだお互いを理解しあえていなかった。 ・イベントや祭りへの出展はできたが、事業所全体での参加ではなかった。</p>
事業内容	<p>①アルミ缶リサイクル：近隣の方々から缶を頂いたり、回収に行っています。 ②ポストカード事業：季節のポストカードやオリジナル年賀状を作成しています。 ③陶芸：障害特性に応じた作業方法を取り入れています。 ④プルトップ事業：アルミ缶のプルトップを使用してブローチなどを製作。 ⑤キーホルダー事業：企業様からデザイン依頼を頂き、プラ板に印刷して製作しています。 ⑥請負：カプセルトイや、ぬいぐるみの仕分けと袋詰めを行っています</p>
年間行事余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・入所式（Zoomと現地でハイブリット開催） ・全体会（Zoomと現地でハイブリット開催） ・ネットワーク内で『なんでもやろう会』を3回行った。（8月・12月・3月） かき氷作り・井ぶり作り・豊洲市場と千客万来へバスハイク ・二十歳の集いと還暦の祝い
日課と生活	<p>コロナ渦なので食事前にはテーブルの消毒やパーテーションのセッティングも行う。黙食を心が得る。 お互いに声掛けしてマスク着用の徹底をする。</p>

文化的活動	<ul style="list-style-type: none"> ①近隣へのアルミ缶回収 ②創作教室実施 ③きょうされんグッズデザインコンクール参加 ④ソーシャルアートフレンズのかかし祭り参加 ⑤東日本大震災復興支援事業『ひまわり活動』参加 ⑥ギャラリーへの展示販売など ⑦深川資料館通り商店街かかしコンクール参加
利用者自治活動	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者自治会組織 月1回リモート開催→行えなかった。 今年度は選挙管理委員会と代表演説止まり ②「なんでもやろう会」利用者が主で企画開催
事業内容 その他	<ul style="list-style-type: none"> ①希望者には送迎を実施（運転席と乗車席に仕切りを設けるなどコロナ対策を） ②給食は実施していないが数種類のメニューから選べる楽しさを設けている。 ③利用者健康診断 ④新型コロナワクチン巡回接種支援（希望者）
利用者支援	<ul style="list-style-type: none"> ①工賃の基準を利用者に分かりやすく説明し理解して頂く。 ②工賃について利用者と毎年話し合い労働への意欲向上を促す。 ③障がい特性に応じて行える作業が異なるので日々作業に選択肢を設けている。 ④お互いの障害を理解できるように話し合いを実施。
職員	<ul style="list-style-type: none"> ①個別支援計画を踏まえて定期的に検討と改善更新を実施。 ②研修情報を提供しスキルアップを目指す。 ③業務担当を決め、業務の効率化と負担軽減を図る。 ④定期的に話し合える場を設け、支援方法を検討したり、悩みや不安を取り除きより良い職場環境を築く。
事業所の管理運営について	<ul style="list-style-type: none"> ①11月から生活介護事業一本となった。 就労継続支援B型の方で他事業所希望の方1名が異動・5名が生活介護へ移行した。 他の事業所から1名生活介護に異動となった。 ②丸山ハイツのバックアップ施設として連携を深めていく。
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	苦情0件 ヒヤリハット0件 事故報告 東京都・区へコロナ感染報告0件
職員研修について	権利擁護・虐待防止研修 ほかジョブメドレーアカデミーでのウェブ研修を行った。
避難訓練・災害対策などについて	災害備蓄品の確保とチェックを行った。
そのほか	
まとめ	生活介護へ一本化した際、生活介護の定員が10名増えることにより一日平均利用者数が9名増え20.1名の利用となり人員配置加算が2.0:1から2.5:1としなければならず、その分で減収となってしまった。移行後半年はその配置で行いその後、平均利用者数に応じて人員配置加算の変更を行う予定。

j事業所名	本館 ドリーム第2
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	就労継続支援B型
所在地	東京都江東区東砂6-20-7
管理者	田中 直樹
基本情報	定員 20名 現員 20名 男性12名 女性8名 年間平均1日あたり通所者数17.0人 平均年齢39歳 就労支援会計売り上げ(前年度)4,485,645円→(今年度)9,463,703円 平均工賃 24,867円
基本方針	1. ひとりひとりの力とやる気に合わせた作業を提供する。 2. 利用者相互のコミュニケーションを大事にして、一緒に成長していけるようにする。 3. 自分で考え、社会で生きていく力を伸ばし生き活きとした毎日が過ごせるようにする。 4. 障害状況にあわせた支援を行い、健康に毎日過ごせるようにする。 5. 他の支援機関と協力し一般就労に向けて支援する。 6. 利用者本位の作業を進めていく 7. 何でもやろう会、暑気払い、事業所望年会は3事業所合同で行なう。
今年度目標と達成度	1. 月額平均工賃15,000円→ 24,867円 達成 2. 店舗改装 達成 3. 喫茶年間売上目標720,000円→ 1,605,878円 達成 4. 厨房年間売上目標4,080,000円→6,648,200円 達成 5. 裏方年間売上目標600,000円→ 1,209,631円 達成
事業内容 就労支援事業	1. 新しく下請けを始める 2. 地域夕食事業を利用者家族や職員に広げ、収入アップ 3. 喫茶店のメニューを一新。また、デザート部門の強化に努める
事業内容 年間行事 余暇活動	入所式 北海道(函館)旅行 成人、還暦の祝い まぜこぜマルシェ 暑気払い 社会福祉フェスティバル 望年会 なんでもやろう会
事業内容 日課と生活	コロナ禍も3年目になり、外出は作業所近辺に限らず、遠出もするようになった。また、販売活動も外部へ積極的に参加した。10月からは月一回北砂にて「まぜこぜマルシェ」開催。年度末には北海道へ宿泊訓練も達成した。
事業内容 文化的活動	1. きょうされんグッズデザインコンクール 2. 北海道旅行(宿泊訓練) 3. まぜこぜマルシェ
事業内容 利用者自治活動	1. 「何でもやろうかい」の立案・実施 利用者中心での企画 2. 帰りの会のひとこと 3. 宿泊訓練

事業内容 その他	<ul style="list-style-type: none"> 1. 希望者には送迎を実施 感染対策 2. 利用者健康診断
利用者支援	<ul style="list-style-type: none"> 1. 作業班を3班に分け、様々な作業を提供。希望があればその都度実習を行い、異動も可能 2. 毎月工賃支給日に1か月の振り返りを行い、翌月の目標を一緒に確認する 3. 毎月各班の売り上げも確認し、売り上げに応じた時給を報告し、全体で振り返りを行っている
職員	<ul style="list-style-type: none"> 1. 個別支援計画の作成・検討・改善のため、利用者・保護者との話し合いを定期的に行う。5月、11月に実施 2. 職員の指導力を高めるための研修を実施、虐待防止など 3. 職員との個別面談 年度末に実施 4. 日々の支援での相談などが行いやすい環境づくり
事業所の管理運営について	<ul style="list-style-type: none"> 1. より良い支援を目指すため、職員に施設の制度などを説明 2. 車いす利用者がすれ違えるほどに整理整頓を実施
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	苦情0件 ヒヤリハット0件
職員研修について	年1～2回実施
避難訓練・災害対策などについて	
そのほか	
まとめ	<p>コロナも落ち着き、徐々に日常の活動が再開されています。利用者さん自身も課外活動にはとても積極的です。前年度よりも様々な活動を実施できました。</p>

事業所名	ドリーム第2 分室ドリーム第3
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	就労継続支援B型
所在地	東京都江東区北砂4-40-9 上地ビル1F
管理者	田中 直樹
基本情報	<p>令和4年度 利用開始者 男性3名 女性 0名 令和4年度度 利用終了者 男性0名 女性 0名 2023年3月31日現在 男性11名 女性 7名 計18名在籍 年間平均1日あたり通所者数15.7人 平均年齢38.5歳 19歳～86歳 就労支援会計売り上げ3,834,560円 前年度より+904,792円↑ 平均工賃9,858円 前年度より-355円↓</p>
基本方針	<p>障害のある人たちの生きがい・労働を支え、地域生活を営む力をつけられるように、適切な支援をおこなう。 他の支援機関と協力し、一般就労にむけて支援する。 集団を基礎とした人間関係を中心に置き作業を通じて社会で生きていく力の獲得を目指す。</p>
今年度目標と達成度	<p>①利用者一人一人が働きたいと思える場所作り ⇒2023年度末登録、18名まで増やすことができた。 ②店舗型のお店『Cafeくれよん』のオープン ⇒2023年9月14日待望のカフェオープン <u>半年で3,500,000円売り上げる</u> ③アパレルブランド『あとリエくれよん』展開 ⇒仲間達が描く作品でデザインされたTシャツやカバン、クツ等を販売する。 ④職員の人材育成 ⇒仲間達との全活動を職員自身も楽しみ皆で一つのモノを作り上げていく事の大切さを丁寧に粘り強く伝えた。 ⑤安定した収入を考える ⇒毎日、利用者が来たいと思えるような雰囲気作りを心掛け、1日平均通所率を9割程にすることができた。</p>
事業内容 就労支援事業	<p>①Cafeくれよんの営業 ⇒営業時間11:00～15:00 土日祝日定休日 メニュー：ハンバーグ、カレーライス、タコライス、豚味噌しょうが焼き 職員が中心となるのではなく仲間達と一緒にお店を作っていくように心掛けた。 SNSも活用して周知に務めた。(インスタ) ②あとリエくれよんの展開 ⇒仲間達がアーティストとなり多彩な商品が完成しました。 NHKドラマ『舟を編む』で衣装として使用された。 SNSも活用して周知に務めた。(インスタ) ホームページも改良の余地はたくさんあるが完成済 https://crayon.designstore.jp/</p>
事業内容 年間行事 余暇活動	<p>2023年4月 花見 2023年5月 障害者メーデー 2023年8月 豊洲ぐるり公園にてBBQ、スカイツリー 2023年10月 北砂まぜこぜマルシェスタート 2023年11月 豚と脂チャリティーイベント 2023年12月 映画『かぐやびより』鑑賞、事業所望年会(100名、東陽町餃子バル) 2024年3月 3事業所合同宿泊訓練in函館、葛西臨海公園ウォークラリー</p>
事業内容 日課と生活	<p>①朝の会、昼の会、帰りの会 ②検温、爪切りチェック ③毎週のPCR検査 ④店内清掃</p>

事業内容 文化的活動	ヨガ教室、手芸教室、創作教室、創造教室、生け花教室
事業内容 利用者自治活動	2023年度は開催なし
事業内容 その他	① 宿泊訓練 函館 ② 希望者には送迎を実施 感染対策
利用者支援	1. 利用者主体 2. 支えあう雰囲気作り 3. 医学モデルではなく、社会モデルでの考えに基づき、利用者ひとりひとりの作業面、対人面、生活面等での障害になっている事を考え、ひとりひとりに合わせた支援を行う。 4. 障害の重い、軽い、種別等で様々な面で諦めることをしない。 5. 地域に根付いた活動をしていく。
職員	【立場が人を育てる】 職員の成長に力を入れた1年でした。 日頃仲間達と接することや研修等から学ぶ事が主ではありますが、職員一人一人に将来的なビジョンを考え、日常の声掛けも一つ一つ大切にしました。
事業所の管理運営について	計画ではドリーム第3の独立⇒ドリーム第3分室の増設をしていましたが、進めることができませんでした。
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	苦情0件 ヒヤリハット0件 事故報告 東京都へコロナ感染0件
職員研修について	法人単位での研修は実施。事業所単位での職員研修は未実施。
避難訓練・災害対策などについて	2024年3月11日 震災、水害を想定して避難訓練を実施
そのほか	特になし
まとめ	コロナからの脱却を意識した一年となった。 仲間、職員、家族と協力してコロナ禍以前の日常に戻れるように様々な取り組みを計画、実行した。結果として、事業所として最高の一年にすることができました。 コロナ禍で希薄になる人との関わりもより一層意識して関わりを持てるような活動をする様に心掛け、外部にも支援者がたくさん増えたように感じます。 仲間、職員共に『人との関わり』を大切にできた1年でした。

事業所名	ふれあい工房
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	就労継続支援B型
所在地	東京都江東区千石2-2-5
管理者	緑川 亮介
基本情報	定員 20名 現員 28名 男性 9名 女性 19名 2023年度 年間平均1日あたり通所者数 13人 平均年齢 40.4歳 就労支援会計売り上げ 5,011,445円 平均工賃 13,189円
基本方針	障害のある人たちの生きがい・労働を支え、地域生活を営む力をつけられるように、適切な支援をおこなう。 他の支援機関と協力し、一般就労にむけて支援する。 集団を基礎とした人間関係を中心に置き作業を通じて社会で生きていく力の獲得を目指す。
今年度目標と達成度	利用者の確保をしていき、会社の売上げを伸ばす。 併せて職員の増員が目標だった。 利用者は2名減員したが、増員は4名。着実に増えてきている。 また、実習をした方が「入りたい」と希望を出されるため、事業所が楽しい雰囲気をだせているのではないかと思う。
事業内容 就労 支援事業	パンの販売、カレーなどの調理、カフェ運営、企業への販売 コロナが5類になり、一気に販売する量を加速度的に増やした。販路は10か所はある。 来るものは拒まず、またホームページのブログを頻繁に更新し、少しでも魅力上げた。ホームページを見てきたという企業も多くあった。SNSも情報発信には魅力的ではあるが、流動的で客層が偏っているため不安定。ホームページの強さを改めて感じた。やはりインターネットが情報の基盤でもある。 利用者も忙しく仕事をしている中でモチベーションが上がり、給料も上がる。また生き生きと働いている先輩を見て、実習する学生なども魅力を感じてくれた。 11月22日にコロナで行っていなかったイトインを再開する。
事業内容 年間 行事 余暇活動	なんでもやろう会4回。8月すみだ水族館、11月IKEAにカフェの椅子などの買い物。1月アリオのゲームセンター。3月東京湾クルーズ。 夏と冬の休み前に大掃除&宴。3月福島のみそづくり体験
事業内容 日課 と生活	互いの障害を認め合う風土づくりを目指した。言葉遣いや、相手の尊重を重んじる。 たまに白熱することもあったが、時間を置き、クールダウンしたりして、改めてお互いを尊重できるようになっていったと思う。
事業内容 文化的活動	創作教室を毎月行い、さまざまな作品に制作。きょうされん全国大会にて一人の利用者が受賞し、表彰式に参加した。その際も獅子舞や底曳き漁の踊りなども体験。 10月に東京都現代美術館へ「デイヴィット・ホックニー展」を観に行く。
事業内容 利用者 自治活動	行っていない。

事業内容 その他	企業の販売の復活。11月22日にイトイン復活。 チラシやホームページ、ブログで店舗の宣伝。
利用者支援	「仕事をする」という基本に立ち返り、なぜ仕事するのか、事業所に「仕事をしに来ている」ということを大事に伝えてきた。成果ははっきりはしていないが、粘り強くこれからも進めていきたい。
職員	イベントなど外への販売、外出などの行事がコロナ後一気に復活し、其の度、ミーティングを重ね、乗り越えてきた。管理者の仕事が煩雑で職員への仕事配分や指示が曖昧になってしまったところもあったが、交流をこまめにし、互いのフラストレーションをできるだけ抑えた。パート1名入職。10月より。
事業所の管理運営について	個別支援計画の整備 ボランティアの受け入れの増加 利用者見学、実習受け入れ
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	保護者からの苦情1件。利用者の転倒5件。車をガードレールで擦ってしまう1件送迎の車で歩行者にクラクションを鳴らしてしまい謝罪も行う。転倒の内、一件は救急車を呼ぶことにまでとなった。保護者からの苦情も理事長が来所となり、騒然とし、利用者にも迷惑をかけた。
職員研修について	ジョブメドレーの研修を実施。サービス管理責任者の資格取得1名。
避難訓練・災害対策などについて	避難訓練9月と3月に開催。3月に木場公園と合同避難訓練を行う予定ではあったが、天候不順のため、中止。感染症委員会、虐待防止委員会、研修を1回ずつ行う。
そのほか	
まとめ	コロナを抜けて、今まで抑えてきた、思いを一気に吐き出せた年だったように思う。しかし、勢いが余って失敗なども多かった。だが、あきらめず、苦しい中、歩み続けた。2024年度は開けた年になったらと思う。

事業所名	ユニット ひだまり第3、ひだまり第4、ひだまり第5
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	共同生活援助
所在地	ひだまり第3 江東区大島3-25-5
	ひだまり第4 江東区東砂3-7-11 2、3F
	ひだまり第5 江東区東砂6-1-15
管理者	柳 春夫
基本情報	ひだまり第3 定員5名 現員男性5名、平均年齢61才、利用率100% ひだまり第4 定員5名 現員男性5名、平均年齢38才、利用率98.5% ひだまり第5 定員3名 現員男性3名、平均年齢43才、利用率87.5% *ユニット全体の利用率は96.5%。ひだまり第5は入院者が2名でたことと、3月2日付けで退寮者があったことが利用率を低くした。
基本方針	①利用者の意志および人格を尊重し、プライバシーを守る。 ②利用者相互の共同協力を重視し、楽しく規律ある生活を送れるよう配慮し支援する。 ③心身の健康管理に留意する。 ④必要な介助体制を確保するために、外部サービスも利用する。(必要な手続きを進める)
事業の内容	①利用者の健康に配慮した食事を提供する。 ・ひだまり第4は料理担当職員(パート)を朝、夜と配置し施設内で調理。ひだまり第3、第5は夕食はグループ内の事業所で調理した給食を利用。朝食は各施設内で調理した。食事の提供は平日のみ。 ②健康管理に配慮する。 ・健康診断はパート職員を含め必要な者全員が受診している。(利用者は通所事業所で実施) 健診の結果、特段の問題はなかった。 ・コロナ感染予防については検温、マスク、手洗、換気等基本的な取り組みをおこなった。食事でも居室や離れて摂るようにした。PCR検査については2週に1回を原則に実施した。(ゆめグループはGH利用者はGHで実施することになっている) 全体では収束してきたが11月と2月に利用者が感染した。感染予防には留意した。 ・通院に支援が必要な利用者については世話人、生活支援員が対応したが、入院時に手続きや準備が家族だけでは対応が難しい利用者については職員が支援した。 ③入浴、排せつ、部屋の整理、洗濯等を支援する。 (ユニットひだまり第3利用者は基本的に自立しており、独力で行うことを奨めている) ・退院後入浴介助が必要になった利用者があり、見守りや部分的な介助を行った。 ・部屋の掃除が一人では困難な方は職員と一緒にいった、十分な状態ではない。 ④余暇活動の支援 ・コロナが比較的落ち着いてきた中で9月、GH・生活寮全体の取り組みとしてスカイダックでの遊覧を行い、ほぼ全員が参加した(9月)。ひだまり第4は荒川土手の散歩に加え、電車やバスを利用しての外出を休日に実施している。また、地域の方々も参加して10月から開催されている北砂まぜこぜマルシェにも参加する利用者が多かった。 ⑤金銭管理の援助 ・各GHに金銭管理の支援が必要な利用者がある。支援の方法は利用者それぞれであるが、万が一にも間違いが無いように依頼書の確認や記帳や金銭の保管に注意している。 ・買い物の支援も行った。 ⑥日常生活の問題や将来のことなど相談・助言する ・寮会議の定期的な実施ができなかった。ひだまり第5では日曜日に「週の振り返り」を支援員と利用者で行ってきた。開所から短い期間だったが利用者相互の理解や職員の利用者理解に役立っている。

防災訓練	ひだまり第3、第4、第5ともにコロナウィルス感染拡大予防の為、独自の避難訓練は行わなかった。
まとめ	<p>定員いっぱいの13名の利用者とスタートした2023年度だったが3月初めに一名の退所者が出てしまった。利用者相互の関係が充分に取れず「楽しいGH」になっていなかったことが最大の原因だと思う。前述の事業内容④で述べたような取り組みもできてはいるがユニット全体のものにはなっていなかった。</p> <p>運営上の問題として職員体制が確立できていなかったことがある。第3のまかない職員の確保が難しかったし土日の職員配置など工夫し実現できたが全体として人件費が大きく「赤字経営」だった。2024年度になって基本的には改善されているが安定した体制が確立したとはいえない。新しい管理者への移行も含めてユニット全体の職員の交流・協力できる体制が求められている。</p> <p>2023年度は第3者評価実施の年だった。無事評価は終了したが記録することの重要性など貴重な指摘を受けた。また、ユニット各事業所が「素晴らしい」実践をしていることも教えられ、それをユニット全体のものにする事が必要と痛感した。</p>

事業所名	丸山ハイツ・東砂ハウス
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	共同生活援助（丸山ハイツ：滞在型・東砂ハウス：通過型）
所在地	1) 丸山ハイツ：東京都江東区亀戸4-21-6 2) 東砂ハウス：東京都江東区東砂6-20-7-2F
管理者	中村 幸江
基本情報	定員 5名 丸山ハイツ 7名 東砂ハウス(男性4名 女性3名)
基本方針	精神障害者、知的障害者の地域生活における生活の場を確保し、その自立と社会参加を促進することを目的とする。
事業内容生活訓練	生活のリズムの調整。洗顔、歯磨き、入浴、着替え、洗濯の指導や介助。 炊事や栄養面での助言。 服薬の声掛け、薬の飲み方の助言。調理のアドバイス。 各居室の掃除、整理整頓の指導。ゴミ出しやトイレ、浴室の掃除など、 当番の声掛け金銭管理の指導。共有スペースなどの利用ルールへの順守。
事業内容 日中活動支援	日中活動として利用している関係機関との連携。 まだ日中活動の場を持たない人には、通所施設の紹介、見学同行。
事業内容 相談支援	計画相談支援利用の手続き支援や、セルフプラン、状態悪化時や、不安時の相談。 GHでの人間関係の調整や、家族関係の調整。利用者が抱えるさまざまな思いへの寄り添い。夜間の電話相談。
事業内容 日課と生活	① 低カロリーでバランスのとれた夕食提供（タイヘイを利用） ②必要な方へ入浴介助等を行う ③夜間支援体制をとり、急な体調不良等へ対応（東砂ハウス）
事業内容的活動	8月 江東花火大会を東砂ハウス屋上で見学（希望者3名とご家族、職員1名） 3月 丸山ハイツ・東砂ハウス合同で浅草へ外出（参加利用者8名、職員4名）
事業内容 利用者自治活動	

事業内容 その他	<p>食事の提供 丸山ハイツ 夕食（月から金） 東砂ハウス 夕食（日から金）朝食（月から土） 必要に応じて、通院同行。障害年金など、様々な手続きの助言、および関係機関への同行。</p>
健康管理	<p>年1回の健康診断を実施する（江東区で実施） 顧問医との面談を定期的実施する。</p>
職員	<p>管理者 中村幸江 サービス管理責任者 中村幸江 世話人 川西弘晃、太田真理子、伊藤秀一、寺山京子（パート） 3月に正規職員一人退職（健康上の理由）</p>
事業所の管理運営について	<p>個別支援計画の作成のため、利用者や保護者、関係機関との話し合いを定期的に行なう。 職員の指導力を高めるための研修を実施（ジョブメドレー） 寮費（食費、日用品費、光熱費）の内訳、および返金の内訳を利用者が理解出来る形で明確化。 新任職員の研修に力を入れる。</p>
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	<p>特になし</p>
職員研修について	<p>ジョブメドレー研修、外部研修（zoom）への参加</p>
避難訓練・災害対策などについて	<p>防災訓練を実施</p>
そのほか	<p>月1回寮会議を実施 PCR検査を月1回行った 1月 丸山ハイツ利用者が帰寮せず搜索願を出したが、深夜に実家へ戻った</p>
まとめ	<p>2年以上女性居室が1部屋空いていたが、1月に法人内のGH調整で入居者が移動し満室になった 3月に東砂ハウスが通過型から滞在型へ変更した</p>

事業所名	ドリームクラブハウス
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	就労継続支援B型
所在地	東京都江東区1-15-8
管理者	藤森 幹朗
基本情報	定員 20名 現員 19名 男性 12名 女性 7名 年間平均1日あたり通所者数 7.0人 平均年齢 45.6歳 就労支援会計売り上げ 437,020円 平均工賃 5,169円/月
基本方針	障害のある人たちの生きがい・労働を支え、地域生活を営む力をつけられるように、適切な支援を行う。 他の支援機関と協力し、一般就労にむけて支援する。 文化活動・スポーツ活動に取り組み、健康で文化的な生活を送れるように支援する。 生活のリズムを大切にしながら、病気とつきあい地域生活を送る事ができるよう支援する。
今年度目標と達成度	事業所の活性化 利用者さんが退所・出席率が低いなどの点を改善していきたい。 自主製作品 年度後半から、販売活動を少しずつ行ってきて、売り上げは向上した。
事業内容 支援事業	就労 ①自主製品製造販売（革製品、編組コースター） ②ネジの箱詰、梱包出荷作業。 ③北一ビル4F行事用資材置き場の管理委託。 ④2023年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらの作業を行なった。販売イベントは開催できたものも多く、できる限り出店した。 ⑤ネット通販事業は低迷だが、販売企画などに協賛しながら、継続している。 ⑥東京都福祉トライアルショップ くるみる 定番商品は実績を上げている。 新商品開発なども共同で行っている。 ⑦9/1 山口産業（墨田区・革なめし工場）共催で、カードケース新作発表会実施。 当日は利用者が、商品説明、ドリンクコーナー案内、休憩など、グループに分かれて、来場者を案内した。カードケース100ケ作成、その内、43ケの販売実績。昼食休憩として、近隣商業施設のフードコート利用、その時間は班ごとに分かれて外出した。
事業内容 年間行事	年間 余暇活動 入所式4月 利用者1名 なんでもやろう会 ・墨田区山口産業（皮革製造業）で開催したカードケース新作発表会参加。 ・保育実習生の最終日、送別会を兼ねて、ホットケーキを焼いて、喫茶をした。
事業内容 と生活	日課 週1回 全フロア清掃日 毎週金曜日 感染状況を考慮してドリーム所内でコーヒータイトと、アリオ北砂のフードコートを利用したのコーヒータイトを隔週交互に実施。
事業内容 的活動	文化 ①創作活動(月1回)今年度は講師を派遣していただいて実施。 ②グッズデザインコンクール 参加 ③かかし コンクール 資料館通り商店街に2点出品、商店街特別賞・銅賞を受賞。 ④10月～、北砂一丁目第2児童遊園にて、コミュニティガーデン参加。ボランティア団体による公園花壇の手入れなど。
事業内容 者自治活動	利用 ① 月曜日午前中のミーティング ② 朝の会、帰りの会

事業内容 その他	<p>① 宿泊訓練 23年度も全法人では行わず、事業所で横浜中華街日帰り旅行。貸切バス使用（共同募金の配分も併せて活用）</p> <p>② 給食は実施しない（仕出し弁当を斡旋する）</p> <p>③ 利用者健康診断 12月</p> <p>④ 定期PCR検査 月2回 江東区補助金利用</p> <p>⑤ ドリームクラブ通信の定期的発行 地域協働加算</p>
利用者支援	<p>1 利用が滞りがちの利用者への継続的な支援。 訪問看護ステーションなどとの連携強化に努めた。</p> <p>2 介護保険ケアマネージャーと利用について相談。</p> <p>3 前年にひきつづき 増えている支援の必要な高齢の家族と同居されている利用者の対応、相談を継続した。</p> <p>4 通院同行。入院時の支援会議に参加</p> <p>5 一人暮らし利用者の生活支援</p>
職員	<p>1 管理者が会議や出向の機会が多く、不在でも支障ないように業務分担を工夫したが、利用相談・電話対応など、少ない職員体制で対応した。</p>
事業所の管理運営について	<p>地域活動支援センター、地区担当保健師、就労移行支援事業所などから、新規利用者の紹介を受けて、利用者が増えたが、今年度に入り、退所の利用者がいた。 入院中の最高齢の女性利用者が院内で逝去。</p>
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	<p>苦情0件 ヒヤリハット1件 事故報告0件</p>
職員研修について	<p>「思春期青年期における問題行動」 （長岡） 「精神保健福祉基礎研修2」 （前田） 東京都工賃アップセミナー（レベルアップ編）（長岡）</p>
避難訓練・災害対策などについて	<p>避難訓練 12月消火器訓練（前田・長岡） 3月BCP事業継続計画について、利用者を交えたミーティング。</p>
そのほか	<p>コロナ感染状況について 9月上旬 職員1名陽性 9月中旬 職員1名陽性</p> <p>グループホームバックアップ施設して ひだまり第3のPCR検査準備実施協力 世話人不在時の支援、高所の掃除 什器の搬出入など支援。</p>
まとめ	<p>仕事では、企業（皮革製造業・山口産業）との連携が持てて、新商品開発・販売イベント開催の一連の流れを経験できた。またKURUMIRUとは長いお付き合いの中で、販売の仕方・効果的な集客やディスプレイ相談なども続けている。</p> <p>生活面では、安定してドリームクラブハウスを利用できる利用者が少なかった。今後、利用者の生活・住宅の支援など、関係機関が密に連絡を取りながら、支援者との連携を充実させていきたい。</p>

事業所名	いぶき寮
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	共同生活援助（介護サービス包括型）
所在地	東京都江東区枝川1-8-15-904、714
管理者	田中 篤子
基本情報	定員 5名 現員 5名 男性3名（714号室） 女性2名（904号室） コロナが落ち着き、近況状況と情報を踏まえ、年度末には外部でお誕生日会の食事を楽しむ日を設ける事ができた。家族との交流は高齢化、遠距離、コロナ過の影響もまだ無視できないので今年度は控えた。1月に女性が他のGHに転出し、女性が0名。2月に男性1名入寮。これまで男女混合の利用でしたが、今後の利用者は全員男性になります。
基本方針	知的障害を持つ人々が、地域で自立した生活を送ることができるための生活の場を確保し、その自立と社会参加を促進するとともに、可能な限り個々のニーズに対応した包括的な援助を提供する。
今年度目標と達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意思及び人格を尊重し、プライバシーを守る。 ・利用者が、自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びにその環境に応じて、共同生活住居において、日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うものとする。 ・地域社会との交流につとめ、関連する障害者団体との連携をはかる。 ⇒上記を心がけ運営した。概ね達成。
事業内容 就労支援事業	区の就労支援センター、木場職業安定所、就労移行支援事業所学び舎と連携しコミュニケーションに問題のある寮生を支えてもらい就職につながった後も安心して定着できるように定期的に連絡を取るなど支援を得る。
事業内容 年間行事 余暇活動	・R5/6月お誕生日会。就職祝い会。R5/10月、11月、R6/3誕生日会。R6/1月お別れ会。
事業内容 日課と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態の把握に努め、日常的な健康管理に配慮した必要がある場合は、医療機関への通院の支援を行った ・利用者の身体の状況・配食サービス利用の他、希望や嗜好を考慮した食事の提供を行った ・利用者の必要に応じて、入浴、排せつ又は食事等の介護を行った
事業内容 文化的活動	・余暇活動等の支援。外出先・外出時間の相談を随時受け、必要に応じて職員同行した
事業内容 利用者自治活動	コロナ過の影響状況が落ち着くに伴い短い時間でも寮会議を取り入れていった。何か問題があったときは、話し合い自分たちで決めて行動に移せるように情報提供や支援を心がけた。

事業内容 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者日中活動先と必要に応じて連絡・調整を行い、利用者の活動を支援した ・利用者と家族間の連絡調整を行った
利用者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自立生活に向けて金銭管理の自立が出来るように支援した ・自立生活に向けたスキルの習得や、個別の要望に対応して助言を行った
職員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施 ・業務の引き継ぎと職員間のコミュニケーションのため業務日誌、利用者個人記録の他に「引き継ぎノート」を利用
事業所の管理運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の緊急時においては、協力医療機関、利用者の主治医、その他の必要な医療機関等への連絡を行う等の、必要な措置をとった。 ・利用者に事故等が発生した場合には、直ちに利用者にかかる障害福祉サービス事業者等に連絡するとともに、必要な措置をとった
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	事故報告 東京都・江東区へコロナ感染2件
職員研修について	GH従事者基礎研修、集団指導、ジョブメドレー、虐待防止、サービス管理責任者基礎研修、強度行動障害の研修を受講した。
避難訓練・災害対策などについて	10月と3月 防災・持ち物検査と使用方法、避難訓練を実地する。 10月25日（水）火災。初期消火、二次避難、119番通報訓練。3/27日（水）地震。室外に避難。ケガ人発生とし通報訓練をする。
そのほか	
まとめ	今年度も全ての活動において、コロナウイルス感染・蔓延予防を1番に考えて運営してきた。

事業所名	ゆめ相談支援事業所
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	特定相談支援事業所
所在地	東京都江東区北砂1-14-4
管理者	岡田 芳久
基本情報	相談支援利用者数 計画相談 78件 (年間) モニタリング 85件 (年間) 非常勤 2名 常勤換算 1.2名
基本方針	利用者の自己決定を支援していく
今年度目標と達成度	法人内の利用者の計画相談を増やす。 セルフプランの方の計画相談切り替えを増やす。
職員	ケガや体調不良があった
事業所の管理運営について	
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	
職員研修について	東社協研修

避難訓練・災害対策などについて	ゆめ工房と合同で行った
そのほか	対面での面接再開
まとめ	相談支援としての意見を求められる場面が増えておりより専門性を身に付けていく必要がある。地域移行など加算を取らないと収入が増えないが現体制の下では困難があった。

j事業所名	地域交流支援センター
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	重度訪問介護 居宅介護 移動支援 同行援護
所在地	東京都江東区1-15-8
管理者	岡田芳久
基本情報	重度訪問介護 延べ 0回 居宅介護 313回 同行援護 46回 移動支援 194回
基本方針	利用者中心の生活支援。 緊急に必要時に動ける体制
今年度目標と達成度	通院介助に力点をおく。身体介助のない知的障害の人の移動支援はニーズが高かった。
事業内容 就労支援事業	居宅介護など
事業内容 年間行事 余暇活動	
事業内容 日課と生活	
事業内容 文化的活動	
事業内容 利用者自治活動	

事業内容 その他	
利用者支援	
職員	区型グループホームの問題 新型コロナ下での介護の困難
事業所の管理運営について	
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	
職員研修について	
避難訓練・災害対策などについて	
そのほか	コロナ感染状況により、移動支援は必要不可欠なものに限定させていただいた。余暇活動などへの移動支援はできなかった。
まとめ	複数事業所間をまたいでの支援を職員が行っていたので、感染状況によってサービスが中止になったり提供を自粛した期間がかなりあった。

事業所名	生活寮ひだまり
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	江東区心身障害者生活寮運営費助成事業
所在地	東京都江東区東砂 8-19-7
管理者	中村 幸江
基本情報	定員 4名 現員 4名 男性3名 女性1名
基本方針	障がいのある人々が、地域で自立した生活を送ることができるための生活の場を確保し、自立と社会参加を促進するとともに、可能な限り個々のニーズに対応した包括的な援助を提供する。
今年度目標と達成度	<p>(1) 入居者の自主性を尊重し、個人の尊厳、プライバシーを守る。 →守るよう配慮した。</p> <p>(2) 入居者が、自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、入居者の身体及び精神の状況並びにその環境に応じて、日常生活上の援助を適切かつ効果的に行う。 →コロナ禍で困難な事が多かったが、可能な限り対応した。</p> <p>(3) 地域社会との交流を深め、関連する障害者団体との連携をはかる。 →地域の方々との挨拶は大切にしてきた。</p>
事業内容	<p>(1) 健康管理の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者の健康状態の把握に努め、日常的な健康管理に配慮する。 (毎朝、検温・血圧を計測する) 必要がある場合は、医療機関への通院を支援する。 感染予防のため、手拭き用ペーパータオルを用意する。 <p>風呂マット、手拭きタオルを個別に分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回、居室、共同スペースを全員で清掃する。寝具等の大物洗濯、乾燥を支援する。 <p>(2) 健康に配慮した食事の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者の身体の状況・希望や嗜好、栄養を考慮した食事を提供する。 (平日：朝食(賄い)、夕食(ドリーム第2の配食) 土日祝日：夕食提供) <p>(3) 入浴、排せつ又は食事等の介助</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者の必要に応じて、入浴、排せつ又は食事等の介助を行う。 <p>(4) 日中活動援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場や、通所施設等のサービスを利用する場合に、必要に応じて職場やサービス提供事業者等と連絡・調整を行い、入居者の活動を支援する。 <p>(5) 余暇活動等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日や余暇時には入居者のニーズに沿った外出支援、趣味活動等支援する。 コロナ禍で外出制限が多い為、天気の良い週末は全員で散歩等の外出を企画する。 室内で楽しめるゲーム等で全員が参加できる時間を作る <p>(6) 相談・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立生活に向けたスキルの習得や、個別の要望に対応し、相談の場を設け助言する。 <p>(7) 金銭管理の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立生活に向けて金銭管理が自分でできるように支援する。 <p>(8) 家族との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者と家族間の連絡調整を行う。
事業内容 年間行事 余暇活動	<p>誕生日会(個室での食事ではあったが、当事者の食べたい物でお祝いをした。)</p> <p>ゲームの日2回(リビングのテレビを使い全員でゲームをした)</p> <p>日帰りお出かけ 3月運転手付きの車を借りて、横浜へ遊びに行った。</p> <p>土日はなるべく買い物や図書館へ散歩に出かけた。</p>
事業内容 日課と生活	

事業内容 文化的活動	4月 食事会（木曾路） 5月 パエリアまつり（阿佐ヶ谷） 10月 区民まつり見学 元利用者の個展見学 年末年始 年越しそば、お節、お雑煮、初詣 2月 訪問歯科を導入（月1回） 3月 日帰り旅行 千葉木更津 海鮮焼き、いちご狩り等を楽しんだ お誕生日会（希望者）
事業内容 利用者自治活動	
事業内容 その他	
利用者支援	必要な方への金銭管理および買い物支援 個人宛に来た書類等の支援 家族との連絡を仲介
職員	①ケース記録、業務日誌の記録をPCで行っている。 ②孤立しないように、連絡を密にとるよう心がけた。 ③希望日に休めるように配慮した。
事業所の管理運営について	
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	
職員研修について	ジョブメドレー研修
避難訓練・災害対策などについて	非常持ち出し袋の中身の確認をした（古くなった非常食を食べて、新しい物を追加）
そのほか	
まとめ	外出行事を少し増やすことができた。 北砂まぜこぜマルシェへほぼ毎月参加した。 訪問歯科を2月から月1回受け、利用者の口腔内の状態を知ることができた。 コロナ感染者が同時に2名出たが、それ以上感染が広がることはなかった。 夜間のセキュリティと依存症利用者の深夜の行動を止めるために、アルソックの夜間セルフ警備を設置した

j事業所名	生活寮ひだまり第2
運営法人	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
事象の種類	心身障害者生活寮（江東区心身障害者生活寮運営助成事業）
所在地	東京都江東区大島3-25-5
管理者	名取 竜太
基本情報	定員 5名 現員 4名 男性4名 女性0名 年間平均1日あたり利用者数=4人 平均年齢58歳
基本方針	①障害のある人々が地域で自立した生活を送ることができるよう生活の場を確保・提供する。 ②提供された生活の場を活用し自立と社会参加に積極的に取り組めるよう支援する。 ③可能な限り個々のニーズに応じた支援を適切かつ安全に行う。 ④地域社会との交流に努めるとともに関連する障がい者団体との連携を図る。
事業内容	①健康管理とそのための支援 毎朝全員の検温を行う。必要のある方は血圧も測定する。 共用スペースのタオルを廃止し、ペーパーふきんを設置した。 新型コロナは5類に移行したものの、玄関では必ずアルコール消毒を実施する。 利用者の健康に配慮した食事の提供→夕食は平日はドリーム第2の給食で賄う。朝食は月曜日から金曜日はパート職員により調理される。栄養面に出来る限り配慮している。休日の食事は、利用者それぞれで購入している。 通院の援助→昨年までは当寮の職員が通院・診察・薬の受け取りの付き添いを行っていたが、職員体制の変更により主にヘルパーさんや介護保険の支援を受けている。 ②日中活動への援助・事業所との連携を重視する 利用者は日中は一般企業、デイサービス、B型事業所の5事業所に通っており、運営も5法人となっている。日常的には情報交換も充分でなかったが時間の許す限り保護者会などにも出席するようにしてきた。今後、成年後見人さん（1名が利用している）との連携協力も含め日中活動事業所や、ご家族の方々との関係を強化したい。
事業内容 年間行事 余暇活動	恒例の生活寮・グループホームのお花見は今年も中止になった。 お誕生会 利用者の誕生月に夕食時に実施した。 日中活動の事業所が行った諸行事にひだまり2は参加できなかった。
年間行事 余暇活動	恒例の生活寮・グループホームのお花見は今年も中止になった。 お誕生会 利用者の誕生月に夕食時に実施した。 日中活動の事業所が行った諸行事にひだまり2は参加できなかった。
職員	今年度6月より、職員1名・兼任職員1名、朝のまかないさんのパート職員1名の3名体制での運営となる。 宿直勤務は廃止となった。

事業所の管理運営について	<p>法内施設（グループホーム）への移行は全く進展がなかった。現施設での意向は難しく、新たな車椅子対応の施設をつくるためにはしっかりした計画を持つ必要がある。</p> <p>老朽化した設備等は多くの修理が必要になっている。適切な対応をすすめる必要がある。</p> <p>グループホーム職員ミーティングが二月一回行われ、当日勤務の職員が参加している。こうした機会は貴重だと思う。</p>
苦情処理・ヒヤリハット・事故報告について	<p>大きな問題はなかった。加齢などで一層の丁寧な支援が求められていることを常に留意し当人・家族等と友好的関係をつくっていきたい。</p>
職員研修について	<p>日程調整が難しいが、出来るだけ参加をして行きたい。</p>
補助金	<p>江東区からの補助金は9,921,440円。 内訳としては以下の通り。</p> <p>運営費 ①213,520円x2名x12月=5,124,480円 ②93,110円x3名x12月=3,351,960円</p> <p>家賃補助 ①24,000円x5名x12月=1,440,000円</p> <p>賠償責任保険加入 5,000円</p>
避難訓練・災害対策などについて	<p>江東区が提案した社会福祉施設等避難計画(対象災害：水害（洪水 内水 高潮）の相談会に出席し、計画を作成し区に提出した。</p>
その他	<p>職員体制を安定させ、寮生が安心して生活できる環境づくりを進めていきたい。</p> <p>また、重度の障害を持った方が1名10月に移動した為、大きな返金を発生させることになってしまった。</p> <p>黒字化を目指すため、方法を検討していきたい。</p>
まとめ	<p>昨年度に1名退寮して以来、4名での運営が続いている。</p> <p>何名か面談を行っているが、未だ入寮者が決まっていない。</p> <p>早く決まってほしいが、なかなか難しくなっている。</p>

監査報告書

令和6年5月27日

社会福祉法人 ゆめグループ福祉会

理事長 岡田 芳久 殿

監事 増田 潔 

監事 青葉 純子 

私たち監事は、2023年4月1日から2024年3月31日までの、2023年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

社会福祉法人ゆめグループ福祉会業務執行報告

(2024年3月19日～2024年5月末)

1. 主な行事など

① 4月3日(水)13時～ 入所式 砂町文化センター

利用者6名 職員2名が入所

久しぶりに全体で参加できた

② 5月1日(水) メーデー

参加を予定していたが、雨天のため不参加

③ グループホームスタッフミーティング

5月16日(木)13:30～15:00 zoom 開催

④ 5月23日(木)13時半～ 全体会 砂町文化センター

全体で集まることができた

⑤ 北砂マルシェ

4/20、5/18 第3土曜日に開催 10時～14時

ゆめ工房&駐車場を利用

ユニバーサル食堂、各ブースで食べ物や小物等を販売

⑥ 訪問歯科を導入

生活寮ひだまりで2月～月1回始めている

入居者の口腔内の状態が知れて有効なので、他のGHにも勧めていきたい

2. 職員入退職

- ・入職 常勤 3名(ネットワークゆめ工房、ひだまり第2第3兼務、東砂ハウス)
- ・退職(5月末) 常勤 2名(ドリーム第2、リサイクル工房サラエ)

3. その他

- ・幸せの黄色いレシート街頭活動再開(南砂イオン)

平日16時～ 日中活動事業所から4名

土日祭日11時～ 生活寮ひだまり が5/11(土)参加した

- ・感染症・・・コロナ、インフルエンザ感染者は時々出ていたが、重症化する人はなく感染が広がることも少なかった。

令和6年度第1回理事会理事長業務報告

理事長 岡田芳久

令和6年4月より

1. 入所式4月3日 文化センターからの苦情対応
2. 新報酬体系などへの対応
3. 人員配置を現場と確認しながら事務作業
4. 毎週金曜日対面施設長会議準備など
5. 人材募集と面接日調整、見学対応
6. まぜこぜマルシェ会場設営、当日誘導など 4月、5月
7. 決議省略理事会
8. 東砂ハウス医師懇談会 5月15日
9. 決算、理事会、定時評議員会準備
10. 災害時の具体的な計画に関する原案提示 災害時の徒歩参集可能者等調査
11. ドリーム第3、サラエ外出訓練付き添い 5月2日
12. ジョブメドレー研修新年度対応キャリアに応じた科目設定
13. 職員会議で処遇改善についての説明

社会福祉法人ゆめグループ福祉会
令和5年度(2023年)決算 分析指標

資金収支計算書を用いた簡易的な経営状況パターン整理表

事業活動収支の部	施設整備等収支の部	その他の収支の部	経営状況パターン
+	+	+	事業成長型
+	-	-	成熟型
-	+	+	借入依存型
-	-	-	倒産型
-997,932	-1,213,940	0	

貸借対照表を使った分析指標

①流動比率

$$\text{流動比率} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$$

1年以内に受け取ることができる資産（流動資産）に対して、1年以内に支払わなければならない負債（流動負債）の割合を表す指標です。

これは、運転資金の余裕度を示しており、高ければ高いほど良いという性質を持っています。（目安 最低300% 安定的500%）

流動資産	流動負債	流動比率
124,950,371	12,537,921	997%

事業活動計算書を使った分析指標

①人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{サービス活動収益} \times 100$$

非常勤職員の割合にもよりますが、内部留保も見越して、介護／障害系で60%、保育園で65%～70%程度が、健全経営の目安となるでしょう。

人件費	サービス活動収益	人件費率
302,390,063	488,217,550	62%

補足

職員一人当たりの収益=サービス活動収益÷職員数(パート0.5)

488,217,550	67 (職員49+パート36÷2)	¥7,286,829
-------------	----------------------	------------

平均500万円～目標800万円程度

②経常増減差額率

$$\text{経常増減差額率} = \text{経常増減差額} \div \text{サービス活動収益} \times 100$$

この分析指標では、「本業（主たる社会福祉事業）の収益性を表す」ものであり、高ければ高いほど、単年度の収益性が高いと言え、相対的に経営の安定性は高い事が見込まれる指標です。

都内の平均値としては、概ね3%前後とされています。

経常増減差額	サービス活動収益	経常増減差額率
-4,121,567	488,217,550	-0.84%